

平成 30 年度 試行調査 (プレテスト) 設問別分析 国語

大学入試センターホームページ (「問題のねらい」等は下記からご覧ください。)

https://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka_test/pre-test_h30_1111.html

試験時間 : 100 分

※設問数は「正しくマークしたときに得点が与えられるまとまり」としてカウントしています。

大問番号 (配点)	分野	設問数 ※	テーマ・出典	分析コメント
第 1 問 (一)	現代文 (論理的な文章)	3	〈テーマ〉言語習得過程における指差し行為の重要性 〈出典〉二つの論理的な文章 (鈴木光太郎『ヒトの心はどう進化したのか——狩猟採集生活が生んだもの』・正高信男『子どもはことばをからだで覚える メロディから意味の世界へ』) + 資料 (川添愛『自動人形の城 人工知能の意図理解をめぐる物語』)	2 つの論理的な文章を読み、両者を関連づけて解答する問題。これまでセンター試験では出題されていなかった記述式の問題が 3 題出題された。問 1 は【文章 I】の中の傍線部を説明する問題であり、二次・私大入試で一般的に出題されるものである。問 2 は 2 つの文章を踏まえて整理したノートの空欄に、当てはまる内容を記述する問題。問 3 は 2 つの文章に関連する資料も踏まえ、設問の条件を満たすように記述する問題。問 2 と問 3 は、二次・私大入試でもほとんど見かけない問題である。いずれの問題も字数制限以内で書くことが求められている。
第 2 問 (50)	現代文 (実用的な文章と論理的な文章)	1 2	〈テーマ〉著作権 〈出典〉実用的な文章 (著作権法の条文の一部) + 論理的な文章 (名和小太郎『著作権 2.0 ウェブ時代の文化発展をめざして』) + 資料 (ポスター)	2 つの【資料】(ポスターと実用的な文章)と論理的な文章 (図表つき) を読んで解答する問題。著作権についての文章とそれについての図表、著作権に関するポスター (資料 I)、著作権法の条文の抜粋 (資料 II) を関連づけて答えることが求められている。これまでセンター試験では、複数の【資料】と文章を踏まえて考える問題は出題されていない。問 1 から問 6 のうち、問 1 では漢字の問題が 5 題出題されており、これは従来のセンター試験第 1 問と同様である。また問 5 の、問題文の「表現に関する説明」として適当か否かを判断する問題も、センター試験でよく出題されている。
第 3 問 (50)	現代文 (詩とエッセイ)	9	〈テーマ〉いのちの有限性と作品の永遠性 〈出典〉詩 (吉原幸子「紙」) + エッセイ (吉原幸子「永遠の百合」)	同一の作者による詩とエッセイが取り上げられ、両者を関連づけて答える問題。センター試験の第 2 問では、小説が出題されており、詩や複数テキストを組み合わせ出題されたことはない。問 1 から問 6 のうち、問 1 は語句の意味の問題が 3 題出題されており、センター試験第 2 問と同様である。また問 6 (ii) の、問題文の「表現に関する説明」として適当か否かを判断する問題も、センター試験で頻出の問題である。
第 4 問 (50)	古文	8	『源氏物語』(作り物語)・『遍昭集』(私家集)	問題文は『源氏物語』で、問 1 から問 4 までは問題文のみに関する問題。問題文の中心人物である女君の心情の読解を中心とする設問で、センター試験同様、短語句の解釈を問う問題が 3 題あるが、語義の知識より文脈の読解に重点が置かれている。文法の知識は、文章表現と絡めて設問の一部で触れられているが、単独の設問としては出題されなかった。問 5 は問題文の内容と、問題文中の歌のもととなった『遍昭集』の歌の関連を問う問題。設問に付された対話文で、問題文中の引き歌表現が話題にされ、もとになった『遍昭集』の歌とその詞書が引用されている。引き歌とそれによる問題文の表現という 2 つのテキストの関連を、現代の生徒と教師の対話という別のテキストを設定するかたちで問うているが、実際に正解を導く上では、対話の中で紹介されている『遍昭集』の詞書と歌の理解と『源氏物語』の本文の理解で正解が決定でき、対話文の読解は影響しない。
第 5 問 (50)	漢文	8	金谷治訳註『莊子』、劉基『郁離子』。	本文は故事成語の原典の現代語訳と当該の故事成語と関連性のある漢文で構成されている。問 1 は語句の意味の問題で、センター試験でも毎年のように出題されている。問 2 は返り点・送り仮名の付け方と書き下し文の問題。問 3 は書き下し文と解釈の問題。問 4 は解釈の問題。いずれも、問題箇所原文からは返り点・送り仮名が省略されている部分がある。これらの問題は、出題頻度に差はあるがセンター試験でも出題されている。問 5 では【文章 I】と【文章 II】の内容を比較する格好で問題が作られており、設問文は対話形式で、その対話文中の空欄 (X、Y、Z) に入る選択肢を選ばせる形になっている。ただし、このうち X は故事成語の問題で、知識問題といってもよい。また Y と Z については、2 つの文章を比較検討することを意図していると思われるが、実際には【文章 II】を丁寧に読解することでも解答が得られるであろう。